

第5章 まちの歴史を伝える

地域の歴史に関わることを、その地域ならではの大切なものとして将来に伝え、まちづくりに活用していこうという取り組みは全国で行われています。ここでは、人々の交流の輪が生まれ、地域に対する愛着※を持ちながら心豊かに暮らすためのさまざまな活動が生まれます。

麻生町も例外ではありません。1983(昭和58)年に、麻生商店街の人たちが、まちの名前の由来である亜麻の栽培に初めて取り組みました。2011(平成23)年には、亜麻を通して人々の交流のきっかけづくりをしようと、亜麻を愛する地域の人たちにより、「あさぶ亜麻保存会」が作られました。地域で活動する様々



な団体と協力しながら、亜麻工場の歴史を伝える活動をしています。

道路脇や公園の花壇などに亜麻を植えて、まちを亜麻の花で彩ろうという活



▲小学校での授業の様子

動もその一つです。毎年初夏から夏にかけて

青紫色の花が人々の目を楽しませています。

このほか、植えて育てた亜麻のくきからせんい

を取り出して糸や織物を作る体験会を開催し

たり、小学校や中学校で麻生と亜麻の歴史に関

する授業を行うなど、幅広く活動しています。

? むずかしいことば

※愛着 心を引かれ、大切に感じること。

あま とう たいけんかい ようす
 亜麻のくきからせんいを取り出して糸を作る体験会の様子



しゅう かんそう
 取かくしたくきを干して乾燥させます



くきを水に浸してくさらせ、
 再び干して乾燥させます



くきをくぐいでせんいを
 取り囲んでいる部分を
 取り除きます



糸車を使いせんいを
 より合わせて糸を作ります



取り出されたせんい



ブラシですいてせんいを
 取り出します

ふっかつ さいばい とうべつちよう
 復活した亜麻栽培—当別町

しんごにえき やく めいじ しょうわ はじ
 JR 新琴似駅から電車で約 30 分の当別町にも明治から昭和の初めにかけて亜麻工場が
 ありました。亜麻工場が次々と閉鎖され
 て、北海道で農作物として亜麻が育てら
 れることはなくなっていました。当別
 町では、亜麻仁油（亜麻の種から取れる油）
 を作ることを目的として、再び農作物と
 して亜麻が栽培されるようになりました。
 はたけ う
 畑に植えられた亜麻の花が見ごろとな
 る 7 月には毎年「亜麻まつり」が開催され、
 多くの人が訪れています。



▲亜麻の花を楽しむ亜麻まつりを訪れた人々
 (写真提供：(有) 亜麻公社)